

増える高齢者の一人暮らし

今年（2022年）は5年に1度の国勢調査が10月に行われます。今回は国勢調査からみた世帯についてみてみたいと思います。

図1は、京都府の人口と世帯数の推移を表したものです。人口は平成17年から22年にかけて減少していますが、世帯数は一貫して増加しています。一世帯あたりの人数が減少してきているからでしょうか。

図2は、世帯割合を家族類型別に表したものです。夫婦と子どもからなる世帯の割合が一貫して減少し、単独世帯や夫婦のみの世帯の割合が増えていることがわかります。

それでは、増加している単独世帯の年齢はどのようなになっているのでしょうか。図3は、単独世帯を世帯主の年齢階級別に比較してみたものです。平成12年では65歳以上より24歳以下の方が多く、京都が学生の街であると実感できますが、毎回65歳以上の高齢者が増加し、平成17年からは24歳以下よりも多くなっています。

前回（平成22年）の調査から5年が経過し、京都府の世帯がどのように変化しているかを明らかにするためには、国勢調査は大変重要な調査であるといえます。今回からインターネットでも回答ができる仕組みが導入されました。府民のみなさまのご協力をよろしくお願ひします。

図1 京都府の人口と世帯数の推移

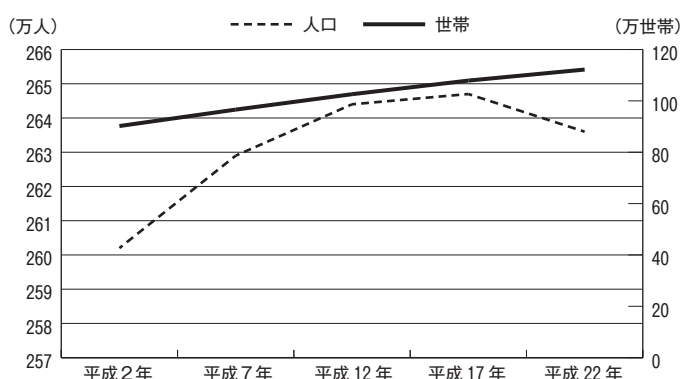


図2 世帯の家族類型別の世帯割合の推移

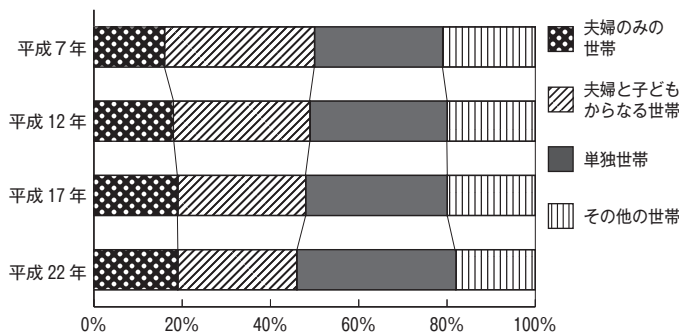


図3 年齢別単独世帯数の推移

